研究所だより

特別号　令和７年９月
発行：草津市立教育研究所

今月号は、夏休みの夏期研修講座とスキルアップ講座、研究発表大会について掲載しています。

夏期研修講座

今年度も、夏期研修講座を開催することができました。ありがとうございました。のべ９７３名の先生方が参加してくださいました。各講座の概要と感想を掲載していますので、各自の実践の参考にしていただければと思います。

●…講座のポイント、◎…感想

講座名	【ICT 教育講座①】 「上級を目指す！　ICT 教育講座」	開催日 人　数	7／23(水) 45名
講　師	加来　美也(ラインズ株式会社)、学校政策推進課		

●日々の授業や校務において活用できる実践的な ICT の「技」(Windows の基本操作に加え、TeachU や Wordwall などの web ツールなど)の紹介。
●e ライブラリアドバンスの使い方として、教材検索のコツや個別最適化の視点からの活用方法など具体的な活用方法と実践。
◎便利な機能について知ることができたので、今後の仕事に生かしていきたいと思いました。
◎ Excel や Word などの使い方や便利な Web サイトを教えて頂けたのでこれからの仕事効率化に役立てたいと思います。

講座名	【チーム学校体制の充実講座】 「ハラスメント防止研修 ～教職員が知っておきたい法的知識やハラスメント対応～」	開催日 人　数	7／23(水) 39名
講　師	学校問題サポートチームアドバイザー　加藤　慶子さん		

●教職員による児童生徒への性暴力等の防止に関する法律等の再確認が大切。「こどもを徹底して守る」ことを最優先に早期発見、対応をしていかなくてはいけない。
●パワハラ、カスハラへの対策は強化されつつある。正確に知ったうえで、適切に対応していくことが必要である。
◎生徒に聞き取りした内容をこちらが言い方を変えてしまうと証拠能力が下がるということに驚きました。このように知らないことがたくさんあり勉強になりました。
◎教員として日頃から気をつけていかなければいけないこと(自分の身も守るために必要なこと)を改めて思い知ることができました。

講座名	【人権教育講座(人権・同和学習)】 「さかな屋さんと自尊感情」	開催日 人　数	7／24(木) 126名
講　師	元野洲市教育長　西村　健さん		

●すべての人権問題に共通する「自尊感情」「仲間づくり」を重視する。
●人、本物との出会いを大切にして、すべての人権教育に広げていく。
◎人権のさまざまな課題は、すべてが個別になっているのではなく、共通する部分があることがわかりました。また、その部分を育てていくのが、自分ができる人権教育なのだなということを実感しました。
◎気さくなお話しの中に人権教育に関するご助言やヒントが散りばめられており、とても勉強になりました。

講座名	【就学前教育の充実講座（幼保小接続）】 「学びをつなぐ　～架け橋期の教育の実現に向けて～」	開催日 人 数	7／24(木) 100名
講 師	滋賀文教短期大学　子ども学科　伊藤　孝子さん		
	●保幼小の連携・接続の課題と成果について知り、これからに活かしていく。 ●架け橋期である 5 歳児から小学校 1 年生の2年間のカリキュラムを、草津版「架け橋期カリキュラム共通シート」をもとに中学校区ごとに共有・検証をする。 ◎こども園の先生方からも現場の話を聞くことができよかったです。園と学校で連携をとり、一年生のこどもたちの不安を少しでも取り除けたらと思いました。 ◎小学校に入ってくる前にどのような活動をしていたのかを知ることができました。あらためて園での活動が小学校の各教科の学習につながっていることが分かりました。		
講座名	【スクール ESD 講座】 「総合的な学習の時間の学習展開について」	開催日 人 数	7／25(金) 36名
講 師	滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課　森井　貴士さん		
	●スクール ESD（総合的な学習の時間）の「必要性」を確認し、今後の取り組みの「見通し」を持つことが大切である。 ●「スクール ESD くさつ」では、調べるだけではなく、「行動する、発信する」ことを重視する。学んだことを活かせるかどうかの観点を大切にしていってほしい。 ◎ESD の授業作りについて進め方がよく分かりました。こども達が課題を見つけて自分事にとらえる授業の入り口が大切だと思いました。 ◎一生探求、一生青春という言葉を最後にいただきましたが、総合は、他の教科と比べ、こどもの実態、地域の実態など、変化の大きなものです。時代の流れなど、日々教師がアップデートを続け、こどもたちに生きる力を身につけさせていきたいと思いました。		
講座名	【特別支援教育講座】 「全ては幸せを感じるために　～やまなみ物語～」	開催日 人 数	7/28(月) 95名
講 師	やまなみ工房　山下　完和さん		
	●「～しなさい」ばかり言っている大人ではなく、利用者一人ひとりの意思に寄り添うことが大切。やまなみ工房では、利用者が喜びに満たされる日々を目指す。 ●「すべては幸せを感じるために」という想いに基づき、教える・教えられる、支える・支えられるの枠を超え、互いに共生する社会の実現が重要である。 ◎自分の中の常識や当たり前、決めつけをいかに取り払って、その人自身の可能性を信じられるかどうかが大切だということがわかりました。 ◎障がいに対しての考え方が変わる素敵な講義だと思いました。こどもたちに〇〇しなさいと正しいことを指導することだけではなく、1 人ひとりの心と向き合い、良さを伝えみんなで支え合えるように伝えていくことが教師の仕事だと感じました。		
講座名	【ICT 教育講座②】 「新校務用端末に関わる研修会」	開催日 人 数	7/28(月) 67名
講 師	株式会社　内田洋行		
	●市内小中学校に導入される新校務用端末の利活用と、それに伴うネットワーク環境およびセキュリティ体制の変化についての紹介。 ●ファイル共有基盤が従来の Public から Microsoft Teams への移行への説明。 ◎新端末導入時に、職員が困りそうな点が見えたので、導入された時には手助けができるようにしたいと思います。 ◎新しい端末になって、セキュリティ面で強化されることがわかりました。改めて職員一人ひとりのセキュリティ意識を高める必要があると思いました。		

講座名	【生徒指導・教育相談講座】 「発達障害と見分けがつきにくい症状や学校連携について」	開催日	7/29(火)
		人 数	135名
講 師	滋賀県 SSW スーパーバイザー　精神保健福祉士　宮脇　千恵さん		

●教室で気になるこどもたちへのまなざしやその背景にある様々な困難さ、支援の必要性についての具体的事例とその対応について知り、これからに活かしてほしい。
●学校だからこそできることがある。SSW や SC なども活用しながら、一人ではなくチームで関わっていくことが大切。
◎具体的にこどもの様子がよくわかり、その時にどのように関われればいいのか、わかりやすくお話くださったことがとてもよい学びになりました。
◎こどもの行動が SOS につながっているという事をおっしゃっていて、立ち歩きや勝手な発言は教師に助けを求めているのかもしれないと実感しました。

講座名	【多様な教育的ニーズ講座】 「こどもの貧困とヤングケアラー」	開催日	7/31(木)
		人 数	74名
講 師	こどもソーシャルワークセンター　　鳴橋　杏里さん		

●こどもソーシャルワークセンターの役割について。貧困家庭、ヤングケアラーの具体的事例を基に支援の方法を知る。
●学校には、ヤングケアラーかもしれないという視点を持っていただきたい。学校だけで悩まず、民間の福祉支援も積極的に活用してほしい。
◎こどもの居場所作りについて考えました。一人ひとりに寄り添って、大切にしていくことを社会全体でしていくべきことだと思いました。
◎励ましたり、ほめたりすることが、支援につながると思っていたのですが、負担になることがわかり、勉強になりました。言葉がけの難しさを痛感しました。

講座名	【こどもまんなかの学校づくり講座】 「ルールから始まる、生徒主体の学校づくり」 ～ルールメイキングを通じて育む自治と対話の力～	開催日	7/31(木)
		人 数	52名
講 師	立命館守山中学校・高等学校　　水野　翔太さん		

●日々、生徒に尋ねる姿勢を大切にしながら進める生徒指導のあり方を考える。
●ワークショップを通して生徒主体の学校づくりの基本を体験する。
◎一つの物事について、全員が自分ごとのように関わり考えることが大事だと思いました。二学期以降、こどもに任せる部分、こどもと考える部分を作りながら、学級を作り上げたいと思いました。
◎ルールメイキングはあくまでも手段であること、教員の共創のスタンスを大切にすることという言葉が印象に残りました。今ある当たり前を疑うことができているかをもう一度見直していきたいと思います。

講座名	【働き方改革の推進講座】 「午前5時間制40分授業とチーム担任制　～先進校の実践に学ぶ～」	開催日	8/4(月)
		人 数	37名
講 師	愛荘町立秦荘西小学校　国寄　智将さん		

●秦荘西小学校での午前5時間制40分授業の取り組みについての成果と改善点。教科担任制、学年チーム制（1週間で担任を交代する）など様々な仕組みで工夫している。
●授業時間は短くなるが、「削る」ではなく「デザインする」という意識で行うことが大切である。実際に授業をしている先生からの話を聞き、実践について知る。
◎草津市の教員が前向きに午前5時間制に取り組むために不可欠なのは、これまで 45 分で行っていた授業内容を 40 分でデザインすることだと思いました。
◎新たな取り組みに不安な部分がありましたが、実際に取り組んでおられる先生方のリアルなお話を聞けて、不安な部分がずいぶん軽減されました。

講座名	【ウェルビーイングな学校づくり講座】 「”伝える”から”伝わる”へ　～心をつなぐ言葉の技術～」	開催日 人　数	8/5(火) 61名
講 師	フリーアナウンサー　牧田　もりかつさん		

●活舌練習。母音を意識しながら話すことで相手に聴き取りやすい話し方になる。近くの人と実践し、聴きあうことで自分の話し方を意識する。
●人と繋がるための、話の伝え方や聴き方のコツを御自身の経験も踏まえながら説明され、PREP 法、ペーシングなど、様々な手法を体験した。
◎理論的にコミュニケーションについて学ぶことができ、ためになりました。自分だけでなくこどもたちにも伝えられる技術がたくさんあったので、また伝えていきたいです。
◎話すことが仕事なのに、無意識に、おざなりにしていることがあったなぁと反省しています。今日の講座の理論を忘れないで実践したいです。

講座名	【草津教員塾　学力向上講座(体育科)】 「運動好きのこどもを育てる体育学習」	開催日 人　数	8/5(火) 26名
講 師	ノートルダム清心女子大学　安江　美保さん		

●テーマをいくつも与えることで、動作の種類を増やしたり、手や足だけではなく、体を使って大きく動かしたりすることが大切。
●表現運動には、「動きの誇張」「連続した動き」「変化とメリハリ」を組み入れながら行うと良い表現運動になる。
◎表現運動の実技講習ということで、あまり経験したことのない内容だったので、とても貴重な時間となりました。本日の学びを現場のこどもたちと実践することが楽しみです。
◎表現運動を児童が考えて実践できるようにするイメージが全く浮かんでなかったので、大変勉強になりました。

今後も、教育研究所ではニーズに合った研修を企画していきたいと思います。スキルを伸ばしたり、幅広く学んだり、御自身の教養を深めるために、ぜひ当研究所の講座にご参加ください。お待ちしております。

研究発表大会

<table>
<tr><td rowspan="6">第一部</td><td colspan="2">令和6年度 奨励論文･研究論文発表会</td><td>開催日時</td><td>7/30(水)13:00～</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>参加人数</td><td>(一部)42名、(二部)38名</td></tr>
<tr><td colspan="2"> </td><td colspan="2">とびだせ！おひさま探検隊
～体験から広がるわくわくの世界～
草津中央おひさまこども園　わくわくする保育を考える会
髙谷　武志さん</td></tr>
<tr><td colspan="2"> </td><td colspan="2">「共同実施の未来を楽しく」有志による取り組みと効果について
草津市立小中学校事務共同実施推進協議会　未来部会
代表　藤川　亮さん</td></tr>
<tr><td colspan="2"> </td><td colspan="2">主体的に学級をよりよくしようとする児童の育成を目指して
～レーダーチャートの活用を通して～
志津南小学校　　水野　颯人さん</td></tr>
<tr><td colspan="2"> </td><td colspan="2">不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援の在り方に関する研究
～登校支援室の運用と教職員の関わりを通して～
笠縫小学校　　玉木　裕さん</td></tr>
<tr><td colspan="4">（参加者の感想）
◎様々な校種の取り組み発表を聞くことができ、自校での取り組みに生かしていきたいと考えました。
◎たくさんの実践について、知ることができました。目指すこどもの姿を明確にし、自分の教育実践について試行錯誤を重ねていきたいと思いました。
◎いろいろな具体例もあり、校種、職種の違う方の実践も分かりやすかったです。自分が論文を書くときのイメージができたので、ありがたかったです。
◎自分が専門ではない分野での実践事例を聞き、勉強になりました。こどものためにいろいろな立場で関わっている方がいることも知ることができました。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">第二部</td><td rowspan="3">教育講演会</td><td>演　題</td><td colspan="2">「教育現場における科学的アプローチ」</td></tr>
<tr><td>講　師</td><td colspan="2">滋賀大学教育学部　　教授　大平　雅子さん</td></tr>
<tr><td> </td><td colspan="2">●教育への科学的アプローチ
･昭和60年と令和5年のこどものデータを比較すると、体は大きくなっているが、体力の低下が見られる。教員の経験や感覚だけで判断するのではなく、科学的な数値を基に比較すると、今必要な教育が見えてくる。
･ナッジ：必然的に行ってしまう仕組みを作ること。
･教育は、データで見える化し、ナッジ(仕組み)をうまく利用していけるとよい。</td></tr>
<tr><td colspan="4">（参加者の感想）
◎なんとなくではなく、データを活用することで、こどもたちにも先生たちにも活きてくること、また保護者の方にも安心してもらえることを学びました。感覚も大切ですが、根拠をもった考えもできるようになりたいと思いました。
◎かつての学校現場は経験✖感覚に支えられていたのが、今は経験✖科学的視点で根拠ある実践が必要とされていることを強く認識しました。ナッジ理論を取り入れ、こどもが自らやりたくなるような、気付いて行動できるような見える化の工夫をしていきたいです。</td></tr>
</table>

《スキルアップ支援夏季講座》　授業づくり・学級づくり支援

授業設計のポイントと二学期からの授業構想の検討

７月２２日（火）、教育研究所を会場にスキルアップ支援夏季講座（授業づくり・学級づくり支援）を開催しました。

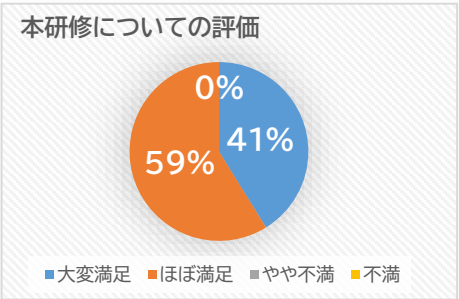
講座の前半では、授業設計のポイントについて、「逆向き設計」と「パフォーマンス課題」ということを手掛かりに、簡単な演習などを交えながら、アドバイザーから説明を行いました。２学期始めの指導案検討では、このことを踏まえながら、アドバイザーと共に指導計画を考えていく予定です。

後半は、同じ学年担任（小学校）や教科担任（中学校）等の先生同士でグループを作り、気軽にアイデアを出し合いながら、２学期に行う授業の単元構想（指導計画）を検討しました。参加された先生方は、他校の先生たちと話し合う中で、日頃の悩みを共有したり新たな発想を得たりして、今後の授業づくりや学級づくりへの意欲を高めていたようでした。（※下記「事後アンケート結果」参照）

今後、２学期中盤からは、一人ひとりの先生の研究授業を計画しています。

各学校においては、校内研究やＯＪＴなどの取組として、できるだけ多くの先生に参観していただき、一緒に学びを深めてもらえればと願っています。

参加者の感想（事後アンケートより）



授業の逆向き設計については、大学でも学ぶ為知ってはいましたが、就職してからこの時期になり改めて言われてみるとすっぽり抜けてしまっていたため、とてもいい時期にいいテーマで講座をしていただけたなと思いました。

いつも授業を考える時は教科書通り考えており、何の工夫もできていなかったと反省しました。単元のゴールから考えることで、こどもたちの深い理解に繋がると思いました。教師の働きかけや仕掛けが大切なことを学びました。２ 学期以降の授業を考える際に生かしたいと思います。

「パフォーマンス課題」という課題が、どういうものかあまりわからなかった。パフォーマンス課題の具体的な例を、もう少したくさん知りたいと思った。グループワークでは、単元の教え方についてグループの先生方と協議できてよかった。普段は忙しくて教材研究がゆっくりできないが、今日はじっくり考えることができたので授業をするのが楽しみになった。これからもできる限り教材研究に時間をかけたいなと思った。

同じくらいのキャリアの人と１つの単元について話し合える機会は、学ぶ機会だけでなく同じ悩みを持てる安心感にもなりました。話し合う単元について、２学期に行う教科で学習できれば研修と実践が結びつけられてもっと良かったです。

普段自分では考えつかない案を提案してもらったり、意見を出し合ったりして新たにどのように授業を作っていけばよいかを学ぶことが出来た。実際に今回考えた内容の実践はできなくとも、部分的に取り組んでいきたいことを見つけられたため、2学期チャレンジしていきたいと思った。

他校の先生方とお話しして、苦労していることや授業の悩みなどが相談できて、学びになった研修でした。２ 学期の授業でのヒントが得られてよかったです。ありがとうございました。

こども主体の授業に向けて
～ICT の有効活用～《スキルアップ ICT 支援夏季講座》

＜ICT スキルアップ夏季講座 実施報告＞

７月２２日（火）、草津市教育研究所にて「スキルアップ ICT 支援夏季講座」を開催しました。本講座では、ロイロノート・スクールを中心とした ICT 活用について、体験実習や具体的な授業事例の共有、情報交換会を通して理解を深めました。

1. 体験実習

参加者は、ロイロノート・スクールの「共有ノート」「テストカード」「シンキングツール」の 3 つの機能を体験しました。中でも「共有ノート」は、リアルタイムでの他者参照や双方向の話し合い、共同編集が可能であり、こども主体の学びを促進する手段として非常に有効であると実感されました。今後の授業実践での活用が期待されます。

2. ICT 活用事例紹介

アドバイザーから、草津市内の教職員による ICT 活用の具体的事例を紹介し、授業での工夫や成果について説明をしました。参加者にとって、身近な実践例は大きな参考となりました。

3. 授業実践報告（山田小学校・倉辻大成教諭）

倉辻教諭からは、音楽科や図画工作科におけるロイロノート・スクールの活用事例のほか、児童の係活動における掲示板としての活用、教員の業務効率化の取り組みなど、多角的な ICT 活用の報告がありました。実践に即した内容は、参加者の高い関心を集めました。

4. 情報交換会

小学校は同学年担任、中学校は同教科担任でグループを編成し、参加者同士が日頃の ICT 活用について意見交換を行いました。他校の教員との交流を通じて、互いに新たな気づきや活用のヒントを得る貴重な機会となりました。

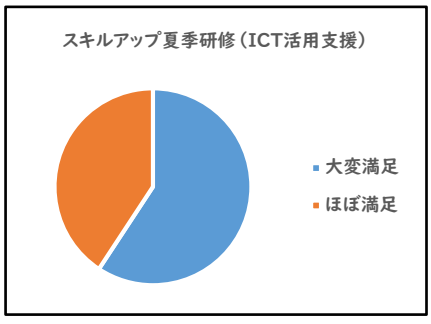
２学期にはセカンド GIGA により、ゼロトラスト環境が整えられるとともに新たな校務用 PC、学習者用 PC が配布されます。ICT を活用した授業改善、こども主体の授業が推進できるようスキルアップの充実を図っていく予定です。

＜体験実習＞

＜倉辻教諭による報告＞

＜情報交換会＞

＜事後アンケート結果＞



＜受講者の感想＞

ICT 活用について、改めて使い方を確認することができました。また、実践例など、効率よい活用方法を知ることができ、有意義な時間でした。

他の先生は ICT を大変活用されていました。自分はまだまだ活用しきれていないので、今回の研修を参考にしたいです。

ロイロノートを中心とした、ICT 活用方法を学ぶことができました。特に、実践内容の紹介は具体的で 2 学期からすぐにでも使いたいと思いました。